

〔教育実践〕

立命館大学・立命館アジア太平洋大学遠隔交流授業
およびアジア学生交流プログラムにおける国際交流
— 掲示板・チャット記録の分析 —

吉田 信介*

坂本 利子**

本研究は、日本人学生、日本への留学生、およびアジアの学生の間におけるコミュニケーション活動の内容について、掲示板とチャット記録から探ること、1) 留学生は日本人学生よりテキスト構造がより明確で論理的な文章を書く傾向にあること、2) チャットでは、参加者が心的態度を示して積極的に議論に参加し、ファシリテーターは、聞き手に適切な義務を課し、タイミングを見計らって決定事項を宣言している様子が観察されたこと、3) その際、ファシリテーターは、発言者への適切なあいづち、感謝、発言内容の確認、発言の催促、各メンバー単位への指示、箇条書きでの整理、意見が出つづいた上での決定と宣言、発表時間厳守の確認、と目的に応じて様々な英語表現を身に付けていることが判明した。これらの知見をふまえて、今後、集団意思決定における文化的差異の有無、優れたファシリテーターの育成方法の探究、通常の会話と、掲示板やチャットでの発話行為との語用論的差異の研究を行っていく。

キーワード：掲示板、チャット、発話行為、交流授業、異文化間コミュニケーション

はじめに

2003年度後期に、立命館大学産業社会学部の英語クラスと立命館アジア太平洋大学（APU）の日本語クラスの遠隔交流授業を、立命館大学大学教育開発支援センターの先進的教育実践支援制度の支援を受けて開始した。

2年目を迎えた2004年度は、上記実践支援プ

ログラムの支援に加えて、文部科学省の科学研究費の支援を受けて、異文化理解教育と異文化間コミュニケーション教育のより実践的効果的指導法を研究課題とする共同研究プロジェクトとしても、同時に実践を開始した。

2005年度は、学部国際化の一環として実践してきた英語クラスと APU 国際学生との日英語交流授業を引き続き継続すると同時に、そこで得られた経験をさらに発展させ、交流授業の経験を実際の国際交流の場で実践させるため、また、アジア諸国の学生との交流を通して、国際理解教育と国際的に通用するコミュニケーショ

* 立命館大学産業社会学部教授

** 立命館大学産業社会学部教授

ン能力の育成を図るため、World Youth Meeting 2005¹⁾、および、「アジア学生交流プログラム (Asian Student Exchange Program 2005²⁾)」に、坂本および吉田が参加希望学生とともに参加した。

目 的

本プロジェクトの主要目的は、学生相互の異文化間コミュニケーション技能の向上と異文化理解教育であるが、それと同時に、国内学生、国際学生、アジアの学生の間でのコミュニケーションスタイルの相違およびその理由を、学生の文化的背景、学校教育、語学教育、言語能力と発言力などの観点から比較分析し、より実践的で有効な異文化理解と異文化間コミュニケーション教育の展開を目指すものである。

本稿では、1) 産業社会学部生と APU 学生との間における掲示板による交流において、文字(英語)による交流で観察されたこと、2) その発展的活動として、ASEP での国際共同によるプレゼンテーション作成での産業社会学部生と海外(アジア)学生とのチャットによる事前打ち合わせにおいて観察されたこと、3) 2) の活動の際の Facilitator が用いた英語表現を整理・分類することによって、今後の交流活動を効果的に行うための知見を得ることを目的とする。

1) 交流授業における産業社会学部生と APU 国際学生間における掲示板への書き込み

(1)方法

立命館大学の WebCT 上に「2005年後期立命館・APU 国際交流プログラム」のホームページを設置し(図1参照)、“The popularity of cell phones in Japan is harmful.”というテーマで、



図1 「2005年後期立命館・APU 国際交流プログラム」ホームページ



図2：掲示板への書き込み

掲示板に意見を書き込ませた(図2参照)。

そこに書き込まれた産業社会学部生一年生(n=12)と APU 学生(n=12)の英文について、Readability、および、Signaling(天満：1989)の使用頻度を比較検討することで、掲示板でのライティングスタイルの違いについて考察を行った。

Readability(テキストの読み易さ)については、Fleschの公式(Flesch, 1960)の内、Reading Ease Scoreを用いた。この得点は、書かれた文章を読み手がどの程度理解できるのかを表すもので、次の式で算出される：

$$R.E. = 206.835 - 0.846wl - 1.015sl$$

ただし、

- 1) R.E.: 難易度を表す 0~100の数値で, 大きいほど読み易い;
- 2) wl (word length): 100語あたりの音節数;
- 3) sl (sentence length): 一文あたりの平均語数とする。

この公式で計算すると, コミック雑誌の記事は95前後で非常にやさしいと判定され, 学術論文は40前後で読みにくいと判定される。

同時に, Flesch-Kincaid の公式を用いて, 米国学齢でのレベル測定も行った。これは, コンピューターの文法チェック・ソフトウェアなどによく利用されている公式であり, 次の式で算出する:

$$\text{Grade Level} = (0.39\text{asl}) + (11.8\text{asw}) - 15.59$$

ただし,

- 1) asl (average sentences length): 一文の平均の長さ (単語の数÷文の数);
- 2) asw (average syllables per word): 一語あたりの平均音節数 (音節数÷語数)とする。

Signaling とは, テキスト理解のための手がかりであり, テキスト構造, 論理的関係, 主要部・下位部分・従属部分の指摘を行う文の要素に注目することで, テキスト構造がより明確になり, 理解が促進されるとされるものである。

Signaling となる語および句には, 次のようなものがある:

- ・列挙順 (first; second; to begin with, ...)
- ・生起順 (first (ly); in the beginning, ...)
- ・同時生起 (at the same time; just then, ...)
- ・付加, 累積 (and; and also; again, ...)
- ・説明 (that is; I mean; in other words, ...)
- ・関連 (in this respect; in this regard, ...)

- ・結果 (so; therefore; consequently, ...)
- ・反対・対象 (but; however; yet; ...)
- ・譲歩 (but; however; nevertheless; ...)
- ・結論 (concluding, in conclusion; ...)
- ・理由 (for; because; owing to, ...)
- ・例示 (for example; for instance; ...)
- ・仮定 (if; in case, ...)

(2)結果と考察

a) 産業社会学部生 (n=12)

〈Readability〉

- ・総語数: 700語
- ・一人あたりの平均パラグラフの長さ: 58語
- ・文の数: 71文
- ・一文あたりの平均語数: 5.9語
- ・Flesch Reading Ease Score=67.5
- ・Flesch-Kincaid Grade Level=5.3

このことから, 産業社会学部生は, 一文平均約6語で, 米国小学校5年生レベルの英語を約60語書いていることがわかる。

〈Signaling〉表1参照

7種類, 総数44, 一人平均3.6の Signaling を用いて書いている。

その内訳は, 付加, 反対, 説明, 理由の4種類の割合が多く (全体の約82%), 比較的限られた Signaling の使い方をしている (図3参照)。

b) APU 国際学生 (n = 12)

〈Readability〉

- ・総語数: 1818語
- ・一人あたりの平均パラグラフの長さ: 152語
- ・文の数: 92文
- ・一文あたりの平均語数: 8.1語
- ・Flesch Reading Ease Score=60.8
- ・Flesch-Kincaid Grade Level=6.7

表1 掲示板での大学別 Signaling 使用頻度

類 型	語 句	APU		立命館大	
説明	that is	52	32	6	1
	this		15		0
	which		3		0
	who		2		5
付加	also	38	4	15	4
	and		29		11
	furthermore		2		0
	moreover		3		0
生起	after	18	2	1	1
	ever since		3		0
	then		2		0
	when		8		0
	whenever		1		0
	while		2		0
理由	because	14	10	6	6
	since [reason]		4		0
列挙	first	9	5	2	1
	second		2		1
	secondly		1		0
	thirdly		1		0
結果	so	8	7	5	4
	therefore		1		1
例示	for example	7	3	0	0
	for instance		1		0
	such as		3		0
反対	however	5	2	9	0
	instead		2		0
	whereas		1		0
	but		0		9
仮定	if	4	4	0	0
結論	conclusion	2	2	0	0
譲歩	although	1	1	0	0
Total			158		44

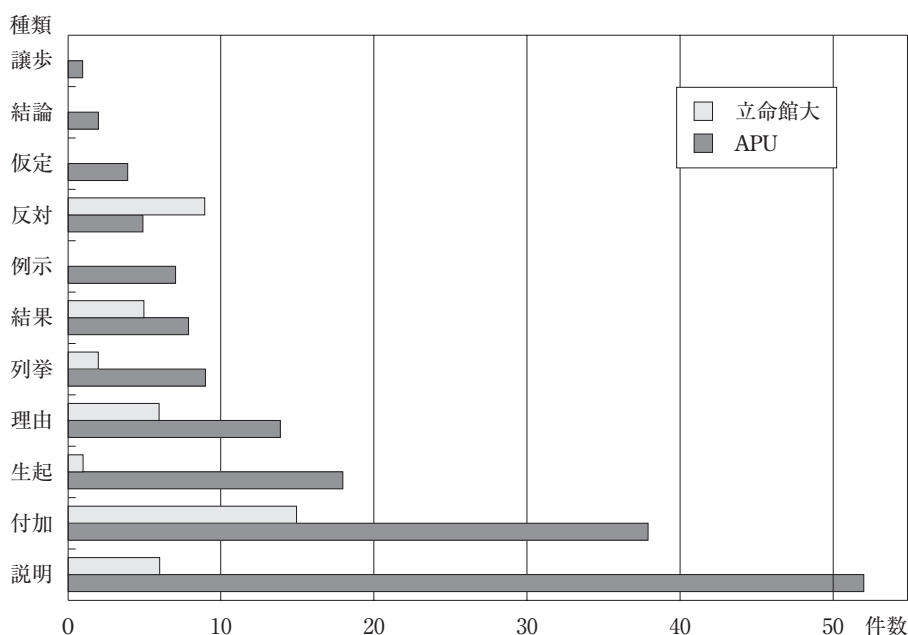


図3 大学別使用 Signaling の種類

このことから、一文平均約8語で、米国小学校6-7年生レベルの英語を約150語書いていることがわかる。

〈Signaling〉表1参照

11種類、総数158、一人平均13.2の Signaling を用いて書いている。

その内訳は、説明、付加、生起、理由、列挙、結果（全体の88%）の6種類の使われ方が多いが、他にも例示、反対、仮定なども用いられており、より複雑、かつ多様な論理展開を用いて書いていることが判明した（図3参照）。

以上より、読み易さについては、産業社会学部生と比べてAPU国際学生の方が、パラグラフは約2.6倍の長さ、一文の平均の長さは約1.4倍、米国学齢で1または2年上級の英文を書いているといえよう。また、Signalingについても、その種類では、APU国際学生は産業社会学部生の1.6倍、語数では3.6倍と、APU国際学生

においてより多く使用されている。

これらのことから、産業社会学部生と比較して、APU国際学生が掲示板に書く英文は、文単位、パラグラフ単位とも、より長く、テキスト構造は、多様な Signaling を用いているため、より明確に示され、より論理的な文章を書いていることを示していると言えよう。

2) ASEP における産業社会学部生とアジア学生とのチャットでの事前打ち合わせ

(1)方法

ASEP in Taiwan での共同プレゼンテーション（テーマ：Rain Forest）の事前打ち合わせのため、Yahoo! Messenger ©（1997-2005 Yahoo! Inc.）の Conference 機能を用いて、チャットによるネットミーティングを数回行った。

掲示板と違い、チャットというリアルタイムでのコミュニケーションに必要な英語表現力や文化を越えての意思決定過程における国際交渉

力を観察するため、打ち合わせの記録 (2005年12月11日実施分) について、発話行為分析を行った。(資料1, 2参照)

発話行為の中には、社会的な規約 (social convention) にのっとった、かなり制度化された行為から、この種の制度化から相対的に自由な日常会話でかわされる多種多様な行為が含まれるが、これら多種多様な発話行為は、a) 問題の基本的な発話目的、および、b) その発話内容としての命題と、その発話がかかわる事態、状況との相互関係、という二つの基準に基づき、次の5つの基本範疇に分類される (山梨: 1986) :

- i) 陳述表示型 (Representatives) : 事態・状況の記述、情報の提示を行うもので、すでに存在している事態、状況に適合させて命題を述べる。
- ii) 行為指導型 (Directives) : 聞き手に所定の行為の義務を課し、それを行わせるもので、これから出現すべき事態、状況に適合させて新たな世界を構築する。
- iii) 行為拘束型 (Commissives) : 話し手が所定の行為を行う義務を負い、これを行うもので、これから出現すべき事態、状況に適合させて新たな世界を構築する。
- iv) 態度表明型 (Expressives) : 話し手による事態、状況に対する心的態度の表明で、事態、状況の存在は前提とされている。
- v) 宣言命名型 (Declaratives) : 事態、状況で表せるような新たな世界の構築で、命題と世界との間に、制度的、慣習的な適合関係をもたせる。

これらの指標をもとに、ネットミーティングでの記録を分析した。(表2, 図4参照)

(2)結果と考察

Facilitator³⁾を除く non-Facilitators⁴⁾では、iv) 態度表明 (33%) と、i) 陳述表示 (22%) と、ii) 行為指導 (22%) が多く、参加者は、事態・状況の記述、情報の提示を行いながら、聞き手に所定の行為の義務を課し、事態、状況に対する心的態度を表明して積極的に議論に参加しているようすがみられる。しかしながら、決定されるべきことを明言するような v) 宣言命名が少ない (11%)。

Facilitator は、聞き手に所定の行為の義務を課しつつ、事態、状況に対する心的態度を表明して、ミーティングを積極的に運営するようすが、ii) 行為指導 (29%) と、iv) 態度表明 (28%) が多いことから観察され、さらに、ミーティングでの結論を導き出して、それを全員に宣言する役目を担っていることから、v) 宣言命名 (16%) が non-Facilitator に比べて多いことがうかがえる。

3) チャットで Facilitator が用いた英語表現の類型

今回のミーティング (12月11日、日本時間午後9時~10時30分) では、台湾の国立中山大学 (A君) が Facilitate を行った。非常に有能な Facilitator で、2時間という時間制限内で、3カ国 (台湾人学生2名、日本人学生2名、マレーシア人学生3名、日本人教員1名) の参加者の意見をとりまとめ、共同プレゼンテーションの役割分担を采配した。ここでは、彼が用いた表現を用途別に整理し、今後のネットミーティングで活用するための資料とする。(表3参照)

表3に見られるように、Facilitator は、英語を自在に操って、発言者への適切なあいづち・感謝、発言内容の確認、発言の催促、各メンバ

表 2：チャットでの発話行為類型

	Facilitator (Taiwanese Leader)	Non-Facilitators							
		Japanese Leader	Malaysian Sub Leader	Malaysian Member	Malaysian Leader	Taiwanese Member	Japanese Member	Japanese Professor	
i) 陳述表示（事態・状況の記述）	16	31	13	10	2	2	0	3	1
ii) 行為指導（聞き手への行為義務）	30	31	14	2	1	6	4	2	2
iii) 行為拘束（話し手の義務）	13	17	2	5	5	1	1	3	0
iv) 態度表明（話し手の心的態度）	29	48	17	10	11	4	4	1	1
v) 宣言命名（新たな世界の構築）	17	15	4	0	2	1	4	0	4
Total	105	142	50	27	21	14	13	9	8

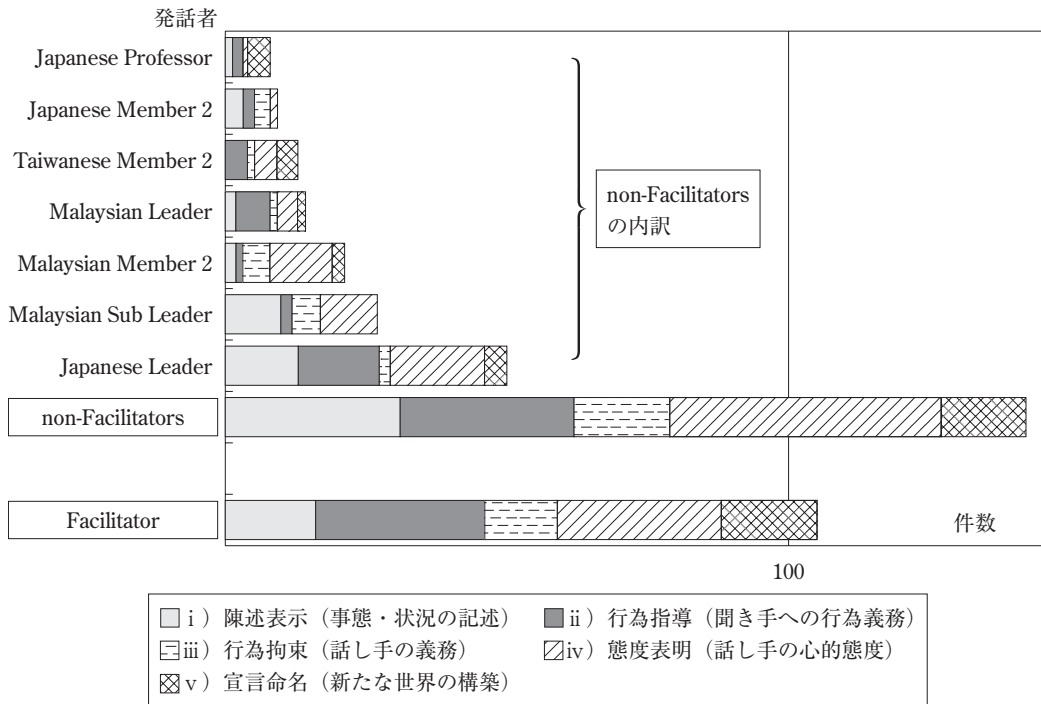


図 4 チャットでの発話行為類型

表3 ネットミーティングでの Facilitator による発話分類

挨拶	Nice to meet you all~^^	全メンバーへ挨拶
	To all...bye bye^_____ ^	全メンバーへ挨拶
相槌	Yes, [member's name]	肯定（特定話者へ）
	Sure, [member's name]	肯定（特定話者へ）
	I see...	理解
	Ha ha...I get the point...	理解
	OK...please say it	承諾
謝意	OK...	承諾
	Thanks, [member's name]	謝意 感謝（特定話者へ）
催促	Please go on	継続の催促
	Understand that, [member's name]?	理解確認（特定話者へ）
	[member's name], are you still there?	発言催促（特定話者へ）
意見聴取	Do anyone want to say something?	全メンバーからの意見聴取
	About [topic], do anyone have any ideas?	全メンバーからの意見聴取
	Do anyone want to say something?	全メンバーからの意見聴取
	We believe they know more about [...]	特定チームからの意見聴取
	How about [country]?	特定チームからの意見聴取
確認	What do you think, [member's name]?	特定メンバーからの意見聴取
	Oh...do you mean this way would be easy to [verb]+[object] ?	意見の確認
	To [member's name], you think that you prefer to [verb]+[object] ?	意見の確認
	So you think that it's [adjective] to talk about [topic]?	意見の確認
指示	To [member's name], you mean that we should [topic] ?	意見の確認
	Can the leader from [country] talk about your condition there?	特定チームへの指示
	To [member's name] you can just give a brief introduction to [topic]	特定チームへの指示
	And [topic] is [country's] part	特定チームへの指示
	But you can talk more about [topic] in [country]	特定チームへの指示
	Sorry we can just [verb]+[object]	全メンバーへの指示
	[group] has to [verb]+[object]	全メンバーへの指示
	Ok...on the next meeting, please [verb]+[object] <(_)>...	全メンバーへの指示
Don't forget [object]...^^	全メンバーへの指示	
整理	1. [content] ... [country]	列挙（一回目）
	2. [content] ... [country]	列挙（一回目）
	3. [content] ... [country]	列挙（一回目）
	1. [content] → [country]	列挙（二回目）
	2. [content] → [country]	列挙（二回目）
	3. [content] → [country]	列挙（二回目）
宣言	It's pity...but I think we can [verb]+[object] ^^...	全メンバーへの意見表明
	Since that most of the people agree with the proposal from [country]	特定チームの意見の採用宣言
	Then our topic would have a little change	（トピックの）変更宣言
	Let me tell you again our work distribution	役割分担の宣言
	OK...The meeting is going to the end...thanks for your attention<(_)>	終了宣言
方針	We are going to [verb]+[object]	今後の方針
	After seeing the data from [country], we can make a conclusion	今後の方針
	We would like to see [noun] in next meeting.	今後の方針
時間	And [figure] mins for each topics	発表時間制約への言及
	Sadly...We have just [figure] mins for [country]....	発表時間制約への言及
	But each [country] has just [figure] mins, please pay attention	発表時間制約への言及と警告
	I'm afraid that we have not much time to talk about it, [member's name]	発表時間制約への言及と警告
ユーモア	I heard that now is the vacation in [country]^"^^	
	Because we are [noun] from each country^^	

一単位への指示, 箇条書きでの整理, 意見が出つくした上での決定と宣言, 発表時間厳守の確認, そして, 時にユーモアを交えて, 円滑に議論を進行し, 決定を行っていった。

台湾の大学生が日常的にネットミーティングを行い, 十分使い慣れているためとはいえ, 英語を用いてこのような内容の濃いコミュニケーションの場を設定して, 運営していく能力を身に付けている様子が見られ, 日本人大学生のみならず, オブザーバーとして参加した教員にとっても大いに刺激となった。今後とも継続して, 英語表現力と国際交渉力を養うための場として活用し続ける価値があることが示唆された。

今後の課題

今回, 掲示板に書かれた英語の分析, 発話行為論からのチャット分析, および, チャットでの Facilitation における英語表現の分析・考察を行ったが, 今後, 次の3点についての継続的研究を行っていく必要がある。

第一に, 異文化間集団意思決定における合意形成にあたって, 日本人学生と APU 学生およびアジア学生の間, 言語表現的・文化的相違が存在するのか。あるとすれば, どのようにしてそれらを克服し, 集団による効率的な意思決定を行うべきかを検討する。

第二に, Facilitator に求められる基本的スキルとして, 1) 場を作り, つなげていくことができる「場のデザインスキル」, 2) メンバーのメッセージを受け止め, 引き出すことができる「対人関係スキル」, 3) 論理的に議論をかみあわせ, 全体像を整理することができる「構造化スキル」, 4) 論点が絞られてきたら, 意見を創

造的コンセンサスにまとめ上げるために必要なコンフリクト・マネジメント力としての「合意形成スキル」, があげられるが (堀, 2005), これらのスキルを外国語としての英語を使って発揮し, 集団としての意思決定を導くことができる日本人学生を育成する方法を提案して行く。

第三に, 掲示板やチャットという一定の方向を持った協同作業である一種の会話の場面において, 通常の会話で必要とされるルールである「協調の原理」(毛利, 1984) が成立するか否かを探る。すなわち, 量 (過不足なく話す), 質 (根拠に基づいて話す), 関連性 (無関係なことは話さない), 様式 (簡潔明瞭に話す) の公理が, ネットミーティングでもあてはまるかどうかを検証することで, より効果的なネットミーティングの方法を提案する。

注

- 1) World Youth Meeting 2005 : (期間 : 2005年7月31日～8月1日, 会場 : 日本福祉大学, 主催 : ワールドユース実行委員会, 後援 : 文部科学省, 愛知県, 各地方自治体教育委員会, 連携協力(財) 2005年日本国際博覧会協会)
- 2) 「アジア学生交流プログラム (Asian Student Exchange Program 2005)」(期間 : 2005年12月22日～12月27日, 会場 : 中華民国高雄市立三民家商, 主催 : Advanced Joint English Tele-communication Project (AJET); World Youth Meeting Committee, 後援 : 高雄市政府教育局, 国立中山大学, 他)
- 3) Facilitator は Taiwanese Leader を兼ねている。
- 4) non-Facilitatorsには, Taiwanese Member, Japanese Leader, Japanese Member, Japanese Professor, Malaysian Leader, Malaysian Sub Leader, Malaysian Member の7名が含まれる。

参考文献

- G. エッケス (2004) 『ファシリテーション・リーダーシップ』ダイヤモンド社
- Flesch, R. F. (1960) *How to write, speak, and think*

more effectively. New York: New American Library.

堀 公俊 (2005) 『ファシリテーション入門』 日本経済新聞社

Kincaid, J. P., Fishburne, R., Rogers, R. L., and Chissom, B. S. (1975) *Derivation of new readability formulas for navy enlisted personnel.* Millington, Tennessee: Chief of Naval Training.

毛利可信 (1984) 『英語の語用論』 大修館書店

天満美智子 (1989) 『英文読解のストラテジー』 大修

館書店

D. ヴァンダーヴェーゲン (1997) 『意味と発話行為』

ひつじ書房

山梨正明 (1986) 『発話行為』 大修館書店

謝辞

本研究は、平成16年度文部科学省科学研究費基盤研究(c)(研究代表者:坂本利子), および、立命館大学産業社会学会の助成を受けて行ったものの一部である。

資料1 チャットの開始部分（2005/12/11）

Japan_P	20:52:11 : Hello!
Taiwan_L	21:05:47 : Nice to meet you all~^^
Taiwan_1	21:07:46 : now...what should we discuss?
Japan_L	21:08:17 : Hi,
Japan_1	21:08:44 : Hi I am (name).
Japan_L	21:08:54 : I'm (name).
Japan_L	21:09:00 : from Japan
Taiwan_L	21:09:04 : We are going to report progress
Japan_P	21:09:15 : Hello! This is (name) from Japan. A could you be Facilitator ? or...
Japan_L	21:09:22 : to (name): O.K.
Taiwan_L	21:09:44 : yes..I'll try
Japan_L	21:09:52 : I want to say O.K.
Taiwan_L	21:10:38 : Can the leader from Japan talk about your condition there?
Japan_L	21:10:49 : O.K.
Japan_L	21:11:00 : I'm Japanese Leader.
Japan_L	21:11:26 : We started to research about WH, and rain forest.
Japan_L	21:12:04 : including the relationships between Japan and tropical trees
Taiwan_L	21:12:42 : yes,(name)
Japan_L	21:13:08 : That's all
Taiwan_L	21:13:25 : I see...
Japan_L	21:13:33 : we have opinion about topic, but
Taiwan_L	21:13:50 : What's your progress now,(name)?
Japan_L	21:14:08 : progress?
Taiwan_L	21:14:29 : yes...How much have your team done?

資料2 チャットの終了部分

Taiwan_L	22:28:50 : ok....
Taiwan_L	22:29:22 : If no one has any proposals
Taiwan_1	22:29:36 : i think we send it to (name)
Malaysia_SL	22:29:41 : sorry
Malaysia_SL	22:29:50 : (name) is the leader
Taiwan_1	22:30:03 : oh~
Taiwan_L	22:30:04 : really@@? ok...
Malaysia_L	22:30:17 : hi. I'm the leader of malaysia team
Taiwan_L	22:30:28 : I see, (name)
Taiwan_L	22:31:19 : Ok...on the next meeting,please finish your PPT<(_)>...
Malaysia_1	22:31:34 : when is the next meeting?
Taiwan_L	22:31:39 : And Taiwan here will gether them into one
Malaysia_1	22:31:49 : ok
Japan_L	22:31:54 : ok
Taiwan_1	22:32:16 : same time?
Japan_1	22:32:17 : At the next Sunday night is the next meeting?
Malaysia_L	22:32:21 : (name) is the assistant leader of malaysia team. thank you
Taiwan_L	22:32:29 : yes,(name)
Japan_1	22:32:34 : thank you
Taiwan_L	22:33:42 : OK...The meeting is going to the end...thanks your attaintion<(_)>...
Malaysia_1	22:33:52 : thanks.bye
Taiwan_1	22:34:02 : bye~all
Taiwan_L	22:34:05 : Don't forget your ppt...^^
Japan_1	22:34:08 : See you next Sunday!
Malaysia_SL	22:34:15 : 88i
Japan_L	22:34:15 : Thank you!!!bye!!!
Taiwan_L	22:34:53 : to all...bye bye^_____^

Collaborative Distance Learning utilizing BBS and Chat Room

YOSHIDA Shinsuke *

SAKAMOTO Toshiko **

Abstract: The purpose of this study is to investigate a record of communication activities in BBS (bulletin board system) and a chat room among Japanese students, foreign students in Japan, and students in Asian countries. The results show three distinctive features. Firstly, in regard to the average lengths of a paragraph and a sentence, foreign students in Japan tend to write longer ones than Japanese students. In addition, foreign students use more signaling words than Japanese such as “that is, this, when, so, for example, such as”, and “if”. That is to say foreign students in Japan tend to write more clearly and logically than Japanese students in terms of text structure. Secondly, while students are willing to participate in discussions and express a wide range of psychological state, the facilitator commits himself to suggesting something and declares a decision. Thirdly, in doing so, the facilitator gives responses to make the conversation go smoothly (e.g. I see + [member’s name]), expresses his gratitude (e.g. Thanks + [member’s name]), confirms (e.g. Oh...do you mean this way would be easy to + [verb]+[object]?) and accelerates (e.g. Please go on.) remarks and comments, gives precise instructions (e.g. To + [member’s name], you can just give a brief introduction to + [topic]), itemizes the conclusions (e.g. 1. [content] → [country], 2. [content] → [country], etc.), and so on. Based on the results of this study, in the future, the writers should investigate the difference of decision making process among various cultural groups and the way to cultivate human resources capable of facilitation.

* Professor, Faculty of Social Sciences, Retsumeikan University

** Professor, Faculty of Social Sciences, Retsumeikan University